都市公園における地域資源の存在状況と活用実態に関する研究

A Study on Existence Situation and Use Realities of Regional Resources in City Park

西阪 玲子* 田原 直樹** 上甫木昭春***

Reiko NISHISAKA Naoki TAHARA Akiharu KAMIHOGI

Abstract : In this research, it aimed to understand the existence situation of a regional resource in the city park, and to investigate the use of the city park as the refuge of a regional resource and the directionality of the use of a regional resource in the future. As a result, it has been understood that a regional resource is produced after in recent years while the kind of the involved a regional resource is various, and has had a lot of things to tell "History and event" in the one and the region concerning "Land". Moreover, it was suggested that the possibility of maintenance and using a regional resource in each city park by investigation into detailed of the movement of a regional resource in the city park and the realities of use.

Keywords: city park, regional resource, refuge

キーワード: 都市公園, 地域資源, 逃げ場

1. はじめに

近年、地域活性化にむけた活動が行われる中で、固有の歴史性や文化性を有する地域資源の再発見とその活用のあり方が注目されている。このような状況の中で、都市公園はどこ地域にも存在するものであり、地域の歴史に関する石碑や、遺跡など地域特有の地域資源を内包している場所が少なくない。通常都市公園は、都市に住む人々の憩いの場、活動の場、緊急時の避難場など多くの役割を果たしているが、地域資源の逃げ場つまり、レフュージアとしての役割も担っていると考えられる。ここでレフュージアとは、生物多様性の分野の用語で、生物の生息生育環境の悪化や種が絶滅しようとする危機的状況にある場合に、生物の多様性を保護する環境として機能するものであるが、本研究においては、地域の歴史的な蓄積としての地域資源が都市化などに伴って消失しつつある中で、公園が地域資源を内包し、結果として地域の固有性を保護する場として機能しているという役割に着目し、それを「レフュージア」と定義した。

これまで、彫刻や史跡などの地域資源と、オープンスペースや公園との関係性に関わる研究としては、彫刻作品の設置とオープンスペースとの関係性の研究^{1~3)}や、樹木と地域との関係性の研究^{4~5)}、城跡などの文化遺産の公園化に関する研究^{6~8)}などの報告がある。しかし、石碑などの地域資源の逃げ場として都市公園を捉えた研究はなされていない。また、地域住民による公園管理の実態の研究⁹⁾は報告されているが、そこでは花壇の重要性は述べられているものの、地域資源の活用に関しては述べられていない。そこで、本研究では、都市公園における地域資源の存在状況を把握し、さらに地域資源の移設の経緯と地域資源を活用した活動の実態を把握することにより、地域と公園との繋がりを捉え、地域資源のレフュージアとしての都市公園の役割を探ることを目的とした。

2. 研究方法

(1) 調査対象とした「地域資源」

本研究では、モニュメント、遺跡など地域の歴史を継承しているものを「地域資源」とし、都市公園台帳に記載されている「修景施設」としての「彫像・その他（彫刻・湧き水）」、「休養施設」としての「その他（浮御堂）」、「教養施設」としての「記念碑・古墳・城跡・遺跡・その他（石碑・木碑・慰霊碑・詩碑・歌碑・植樹碑・記念石・記念柱・記念塔・モニュメント・地蔵・石仏・史跡など）」を対象とした。

(2) 調査対象公園の設定

近世から集落があり、歴史的蓄積があると言われる六甲山以南の地域である、兵庫県の芦屋市、神戸市を対象地域とした。ただし、新興住宅地の多い神戸市西区、神戸市北区は除いた。調査対象公園は、上記の対象地域内の都市公園の中で、前述した「地域資源」の存在が都市公園台帳において記載された公園とした。調査の結果、全 938 ヶ所の公園のうち、103 ヶ所の都市公園を調査対象公園として設定した。

(3) 調査・解析方法の設定

(i) 地域資源の存在状況の確認と分類

芦屋市、神戸市の都市公園台帳に基づき、地域資源の存在状況を確認した公園を対象として、現地において地域資源の内容、成立年代などを調査・確認した。なお、調査期間は2006年7月~10月である。その結果を基にして、都市公園における地域資源の存在状況を分類・整理した。

(ii) 調査対象公園の諸元と地域資源の存在との関係

都市公園における地域資源の存在傾向を調べるため、都市公園台帳を基に調査対象公園の諸元として、種別、成立年代、用地取得法について整理した。各項目のカテゴリーは以下のように分類した。

①種別：街区公園、近隣公園、地区公園、都市基幹公園（総合公園・運動公園）、その他公園（風致公園・歴史公園・都市緑地など）

②成立年代：1940年以前（戦前・防空空地の計画前）、1941年~

* (株)ゼファー ** 兵庫県立大学自然・環境科学研究所 *** 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科

1955 年（防空空地の計画～都市公園法制定）、1956 年～1971 年（都市公園法制定後 15 年間）、1972 年～1989 年（昭和終了まで）、1990 年～（平成以降）

③用地取得法：復興区画整理、区画整理、新設（都市計画法 40 条・住宅地造成事業法・新住宅市街地開発法・埋立などに基づくもの）、所有の変化（事務委任・寄付・所管替・借地・地上権設定・払下げ）、買収、防災公園事業に分類し、さらに事業種別に着目し、(A) 都市公園事業、(B) 区画整理事業による減歩、(C) その他に分けて集計した。

（iii）地域資源の移設の経緯と活動の実態

地域資源のうち、後述する「地物について伝える資源」を対象にして、地域資源の公園内外での移設の経緯についてヒアリング調査を行った。ヒアリング対象は、市役所、区役所の職員、町内会の自治会長、公園の管理に直接携わっている地域住民などであり、調査期間は 2006 年 11 月である。調査から得られた地域資源の移設の経緯を、地域資源・公園の成立年代と位置関係を基に分類・整理した。

また、地域資源を活用した活動の実態についても、活用している地域資源の種類、活動内容、活動主体について同様にヒアリング調査を行い明らかにした。

3. 調査および分析結果

（1）公園における地域資源の存在状況の把握

（i）地域資源の分類

表－1 に地域資源の種類の分類と構成割合を示す。都市公園台帳をもとに調べた結果、103 ヲ所の公園において、164 個の地域資源が確認された。碑やモニュメントなどの地域資源の種類は多様であり、地域の歴史に関連するものや地域性をあらわす資源（134 個）と同時に、地域とは関係なく存在している資源や、彫像などの痕跡はあるものの詳細が読み取れなかった資源（30 個）（以下、「その他」）も存在した。

地域に関連のある資源に着目すると、地域の「土地そのもの」に関連する「地物について伝える資源（以下、『地物』）」（47 個／39 公園）と、地域の「歴史」に関連する「出来事について伝

表－1 地域資源の分類と構成

大分類	中分類	小分類	例	資源数	構成(%)	
地物	形	土地・地形	ため池	3	6.4	
		古墳・城跡	五色塚古墳	7	14.9	
		建造物跡	和田岬灯台	4	8.5	
		祈願対象物	地蔵	地蔵	9	(19.1)
			神社	奥池水神社	5	(10.6)
			無縁仏	無縁仏	2	(4.3)
			その他	「福蔵寺」の道標	3	(6.4)
		「神仏」計		19	40.4	
	形が残るもの・計		33	70.2		
	意味	土地・地形	湊川跡の石碑	2	4.3	
建物跡		大橋中学校跡	5	10.6		
地域性のあるもの		イルカの彫像	7	14.9		
意味が残るもの・計		14	29.8			
公園数【39】			「地物」計【47個】(28.7%)		47	100
出来事	人	歴史的人物	聖徳太子像	10	(11.5)	
		歌碑	在原業平の歌碑	4	(4.6)	
		「人」計		14	16.1	
	地域計画		区画整理碑	10	11.5	
	土地の由来		鶴甲団地沿革碑	3	3.5	
	災害	震災関連	慰霊碑	18	(20.7)	
		震災以外	慰霊碑	6	(6.9)	
		「災害」計		24	27.6	
	市民活動		婦人会40周年記念	8	9.2	
	産業・文化活動記念	発祥・記念	ボウリング発祥の地	4	(4.6)	
		花壇碑	花壇コンクール碑	2	(2.3)	
		植樹	植樹碑	4	(4.6)	
		「産業活動」計		10	11.5	
その他	芸術作品		「老人」の彫像	9	10.3	
	その他		源平合戦の碑	9	10.3	
	公園数【42】		「出来事」計【87個】(53%)		87	100
	彫像	花壇の中の彫刻	10	33.3		
	地域に由来しないもの		5	16.7		
	読み取れないもの		2	6.7		
その他	所在不明		13	43.3		
	公園数【29】		「その他」計【30個】(18.7%)		30	100
	資源総計【164個】(100%)			164		

える資源（以下、『出来事』）」（87 個／42 公園）との大きく二つに分類された。

「地物」はさらに、「形自体が残っているもの」（33 個）と、形ではなく、あるものが存在したという事実、「意味だけが残っているもの」（14 個）に分類される。「形自体が残っているもの」（以下、「形」）の資源の方が数は多く、詳細を見ると、湧き水、ため池などの「土地、地形」に関わる資源（3 個）、五色塚古墳などの「古墳、城跡」（7 個）、防潮堤などの「建造物跡」(4 個)、地蔵などの「祈願対象物」に関わる資源（19 個）などに分類された。

「意味だけが残っているもの」（以下、「意味」）の資源の詳細は、湊川跡の記念碑などの「土地、地形」に関わる資源（2 個）、学校跡などの「建物跡」（5 個）、海に近い須磨区にある海浜公園のイルカ彫像など「地域性のある」資源（7 個）に分類され、昔、もしくは現在のその地域の特徴を碑や像で伝えている。

これら、「地物」は地域と「場」としての繋がりを強くもつ資源であると考えられ、現在の場所に存在することに大きな意味を持つものである。

一方、「地物」（47 個）の約 1.8 倍の存在が確認された「出来事」（87 個）の詳細を見ると、歴史的人物の碑など「人」に関わる資源（14 個）、区画整理の碑など「地域計画」に関わる資源（10 個）、町の由来を示した碑など「土地の由来」を示す資源（3 個）、阪神淡路大震災の碑など「災害」に関わる資源（24 個）、海軍の碑などの「慰霊碑」、地域の婦人会の記念碑など「市民活動」に関わる資源（8 個）、ボウリング発祥の記念碑、植樹碑など「産業・文化活動記念」に関わる資源（10 個）、モニュメントや彫像など「芸術作品」（9 個）、そして源平合戦の碑など「その他」（9 個）に分類された。これらは地域の人にとってこそ意味を持つものが多い資源ではあるものの、「地域の出来事」という捉え方であるので、現在の場所にこだわらなくとも存在が可能であると考えられる。

（ii）公園の諸元と地域資源の存在状況との関係

①種別との関係

公園の種別との関係（表－2）は、一番地域に密着した公園である街区公園（63 公園、61.2%）が最も多く、次いで、近隣公園（17 公園、16.5%）、その他公園（12 公園、11.7%）で、最も少ないのは都市基幹公園（5 公園、4.9%）である。一方、種別の総公園数に対する、資源の存在する公園数の割合のうち、最も高いのは都市基幹公園（50.0%）であり、都市基幹公園、地区公園などに、資源の残る割合が高いことがうかがえた。

②用地取得法との関係

公園の用地取得法との関係（表－3）は、戦災復興区画整理で取得された公園（37 公園、32.2%）が最も多く、ついで区画整理（20 公園、17.4%）、買収（18 公園、15.7%）である。一方、用地取得法別の総公園数に対する、資源の存在する公園の割合のうち、最も高いのは防災公園事業（85.7%）、次いで戦災復興区画整理（27.8%）、区画整理（16.0%）であり、地域の履歴が記念碑などの地域資源として存在していることを示している。さらに、事業種別に着目すると、資源の存在する公園数は、B「区画整理事業による減歩」が 49.6%と半数を占め、地域環境の再編に伴う地域資源が多いことが分かる。

表－2 公園の種別との関係

公園の種別	総公園数 (箇所)	資源の存在する公園 (箇所)	(%)	総公園数に対する資源の 存在する公園の割合(%)
街区公園	763	63	61.2	8.3
近隣公園	65	17	16.5	26.2
地区公園	15	6	5.8	40.0
都市基幹公園	10	5	4.9	50.0
(総合公園、運動公園)				
その他公園 (歴史公園、風致公園など)	85	12	11.7	14.1
計	938	103	100	11.0

表－３ 用地取得法との関係

用地取得法	総公園数 (箇所)	資源の存在する公園 (箇所)	(%)	総公園数に対する資源の 存在する公園の割合(%)
A 買収	174	18	15.6	10.3
防災公園事業	7	6	5.2	85.7
新設(埋立など)	243	7	6.1	2.9
小計	424	31	26.9	7.3
B 戦災復興区画整理	133	37	32.2	27.8
区画整理	125	20	17.4	16.0
小計	258	57	49.6	22.1
C 所有の変化 (寄付、所管替など)	151	16	13.9	10.6
無記入	105	11	9.6	10.5
計	938	115	100	12.3

※(A)都市公園事業
(B)区画整理事業による減歩
(C)その他

③計画年代との関係

公園の計画年代との関係(表－４)は、都市公園法制定後の1956年～1971年(32公園, 31.1%)が最も多く、次いで防空空地計画後の1941年～1955年(26公園, 25.2%)である。一方、計画年代別の総公園数に対する、資源の存在する公園の割合のうち、最も高いのは戦前・防空空地の計画前の1940年以前(91.7%)、次いで防空空地計画後の1941年～1955年(34.2%)であり、計画年代の古い公園ほど資源の残る確率が高いが、都市公園法などによる都市公園の増加に伴って地域資源も増加したという事実とともに、1990年以降の公園の中で地域資源の存在している公園も17公園と多く、近年になってからも多く資源が作り出されていることがうかがえる。

(2) 地域資源の移設の経緯と活動の実態

(i) 地域資源の移設の経緯

地域と「場」としての関係が強いと考えられる「地物」の移設の経緯は、地域資源と公園との成立年代、位置の関係から以下のように大きく4つに分類された(図－１)。五色塚古墳がそのまま公園になった五色塚公園のように「資源の存在が原因で公園が成立したもの」(11個)、地域にあった地蔵が区画整理に伴って公園内に移設された森公園や、和田岬にあった灯台を移設してきた海浜公園のように「公園内に資源が移設されてきたもの」(9個)、公園のそばにあった地蔵が公園成立の際に含まれたなど「近接する資源が公園の成立する際に含まれたもの」(14個)、公園や地域のシンボルとなるモニュメントなど「公園内に資源が新しく作られたもの」(9個)であり、また47個中3個の地域資源は経緯が不明であった。

「資源の存在が原因で公園が成立したもの」は、地域資源の成立年代の方が公園の成立年代より早く、地域資源を内包するように公園が成立されたものである。したがって、この分類は地域資源を公園に移設したものではなく、都市公園制度による都市公園の設置に伴って、結果として都市公園に地域資源が逃げ込んだ形態として理解できる。この分類には古墳、ため池などの地域資源が多く、地域資源を保有するという役割が最も強い分類であると言える。

「公園内に資源が移設されてきたもの」は、公園の成立以前に別の場所で地域資源が成立し、継承できなくなったときに、公園内に移設されてきたものである。御旅所や灯台など地域のシンボル、大切にされているものを継承するために、公園内に避難させたことがうかがえる。

「近接する資源が公園の成立に伴って含まれたもの」は、公園

表－４ 成立年代との関係

成立年代	総公園数 (箇所)	資源の存在する公園 (箇所)	(%)	総公園数に対する資源の 存在する公園の割合(%)
～1940年	12	11	10.7	91.7
1941年～1955年	76	26	25.2	34.2
1956年～1971年	144	32	31.1	22.2
1972年～1989年	465	17	16.5	3.7
1990年～	231	17	16.5	7.4
無記入	10	0	0.0	0.0
計	938	103	100	11.0

図－１ 地域資源の移設の経緯

成立前に地域資源が公園の整備区域内あるいは隣接部に位置しており、公園の成立に伴って公園内に移設あるいは含まれたものである。地蔵など祈願対象物が多く、公園成立の際取り壊すことはできず、公園内に避難させたことがうかがえる。

「公園内に資源が新しく作られたもの」は、公園の成立後に公園内に地域資源が作られたものである。その地域にゆかりのある建物跡などの碑が多く、歴史や出来事の形跡を残そうとして成立されている様子がうかがえる。

「資源の存在が原因で公園が成立したもの」「公園内に資源が移設されてきたもの」「近接する資源が公園の成立に伴って含まれたもの」の3分類は公園の中で資源を継承しようという例であるが、「公園内に資源が新しく作られたもの」の分類が示すように、都市公園は、地域資源の保全の場だけでなく新たに資源が生まれだす場としての役割も果たしていることが確認された。

(ii) 地域資源を活用した活動の実態

上述した「地物」資源について、さらにヒアリングを重ね、活動実態について調査した結果、47個中15個の地域資源について、資源に直接関わる活動が確認された(表－５)。

地域活動に活用されている地域資源としては、「地蔵」が最も多く、15個中10個で、ため池跡などの「土地・地形」が2個、「古墳・城跡」が2個、「地域性のあるもの」である「ササバザクラの碑」も1個活用されていた。活動内容として、清掃活動などの維持管理や、地蔵盆も含めた祭がほとんどの場所で行われていることが確認された。また、活動主体は、自治会や管理会、有志で行っているところが15ヶ所中13ヶ所と多いが、中には教育委員会や、NPO団体が主体となっているところもあった。

「地蔵」に関する活動では長田区の日吉町ひだまり公園や、湊菊公園などであり、維持管理と地蔵盆がほぼすべての公園でおこなわれている。これらは、地域の自治会や管理会とともに、住民個人が自主的に維持管理活動をしているところも多く、地域とのつながりの深さを感じさせる。

「土地・地形」に関する活動は、ため池のある校北公園などであり、維持管理が主になっている。住民の有志による清掃などが行われており、特にイベントなどは行われていないが、ため池を守り育てようという意識は強い。

「地域性のあるもの」としては「ササバザクラの碑」であるが、ここでは桜が多く植えられており、自治会主催で桜祭が行われている。

「古墳・城跡」としては、「舞子細道公園(大蔵山遺跡)」「五色塚公園(五色塚古墳)」であるが、これらは住民の自主的な活動というより、地域住民によるNPO団体や、教育委員会などが活動主体となり、地域住民を巻き込んだ活動を行っている。特に、五色塚公園の場合、五色塚古墳から明石海峡大橋が望めることから、小学生や婦人会の方なども参加して、古墳で明石海峡音頭を踊る祭を、管理を任された地域のNPO主体で開催を始めたところ、継続され参加者も増えている。また、古墳の周りにれんげを植え、れんげ祭も開催するなど、地域資源を活用した地域の活動

表－5 活動のまとめ

資源分類	公園名	資源名	活動内容	活動主体
形が残るもの 折関対象物（地蔵など）	（東灘区） 校北公園	湧き水	周辺の人中心に維持管理。月2回の掃除。 また有志でコイのエサやり等をしており、 ため池を守り育てる考えが強い。	行、市、自、個 政、民、治、人 団、体、管、理、会、
	（長田区） 大園公園	二子池跡 記念碑	年1回、盆踊り、もちつき大会。	○、○
	（垂水区） 舞子細道公園	大蔵山遺跡	教育委員会主催で年1回大蔵山祭。	○
	（垂水区） 五色塚公園	五色塚古墳	し、 毎日の管理も行っている。 NPO緑き霞ヶ丘が主催管理。	○
	（東灘区） 五百池公園	出雲大社 地蔵祭守護地	自治会と、周辺の有志による管理。 餅つきなどの小さな祭もある。	○、○
	（東灘区） 御旅公園	御旅所	管理会＋協議会による管理。 年1回餅まき、盆踊りなども行う。	○、○
	（長田区）日吉町 ひだまり公園	地蔵	地蔵盆。花の水やり等の管理を周辺の人中心に 当番制でやっている。	○、○
	（兵庫区） 湊菊公園	地蔵	周辺の人中心に2月にお祭、 月2回掃除を行っている。	○、○
	（東灘区） 森公園	地蔵の集合	自治会中心で地蔵盆を行う。 毎日、有志が花の水換えなどの管理してる。	○、○
	（芦屋市） 地蔵公園	地蔵	年1回、地蔵盆を行う。	○、○
	（中央区） 花隈公園	地蔵	地蔵盆	○、○
	（須磨区） 稲葉公園	地蔵	地蔵盆	△、△
	（中央区） 相生町東小公園	地蔵	地蔵盆	△、△
	（灘区） 鳥帽子公園	地蔵	地蔵盆	△、△
	（東灘区） 岡本南公園	ササベザクラ の説明の碑	自治会が中心となり、毎年さくらまつりを行っている。	○

○：地域住民へのヒアリングができたもの
△：区役所、建設事務所へのヒアリングのみ

へと繋げており、認知も広まってきている。

4. まとめ

まず、地域資源の存在状況についてみると、地域資源の内容は多様であり、「土地」に関するものや、地域の「歴史や出来事」を伝えるものなどが、総公園数の1割を越える都市公園の中に存在していることが明らかとなった。また、公園の諸元との関係を見ると、都市基幹公園、地区公園など面積の広い公園に地域資源が残る割合が多い傾向にあると同時に、街区公園など地域に密着した公園に最も多く存在することが明らかとなった。さらに、用地取得法との関係では、戦災復興区画整理、防災公園事業といった大きな出来事がきっかけとなる事業に伴って残る傾向があるとともに、地域環境の再編に伴う地域資源が多いことが確認された。そして、地域資源の残る公園には、都市公園法成立後のものが多いが、近年に入ってから公園にも存在しており、地域資源が増加し続けていることがうかがえた。

次に、地域資源の移設の経緯と活動の実態をみると、地域資源の移設の経緯の調査により、「資源の存在が原因で公園が成立したもの」「公園内に資源が移設されてきたもの」「近接する資源が公園に含まれたもの」というように、地域資源が公園内で保全されている実態が確認されるとともに、「公園内に新たに資源が作られたもの」にみられるように、保全だけでなく地域資源が生み出されていることも確認された。さらに、活動の実態の調査によ

り、資源を単に保全するだけでなく、活用している地域の存在も確認された。自治会や有志による従来から行われている地蔵盆や清掃活動などだけでなく、五色塚古墳で見られたように、市民団体が中心となり新たな利用価値を見出している活動は、先進的な事例として注目すべきである。このように、積極的に地域資源を保全し、かつ活用していくことにより地域の活性化へ繋がる1つのきっかけとなることが予想される。

以上のことから、いずれの公園にも地域資源を保全・活用する可能性が内在していると言えるだろう。従って、都市公園は交流の場や災害時の避難の場としてだけでなく、地域の歴史を伝え、地域の様々な出来事を継承する「地域資源のレフュージアとしての機能」を再認識するとともに、今後地域資源を活用した活動により、地域のコミュニティ形成へも寄与することが期待される。さらに、各公園では、これからもそれぞれの地域での歴史や出来事を踏まえて、新たな資源が誕生していくことが想定される。

今後の課題として、都市公園台帳に記載されていない公園における地域資源の存在状況の調査、および公園以外の社寺、地域会館、文化施設、教育施設などのオープンスペースにおける地域資源の存在状況を調査することにより、地域の活性化に資する地域資源の活用方を多面的に検討していくことが必要であると考えられる。また、本研究では、地域資源の継承に視点をおいて、新興住宅地が多い地区を除外して調査対象地を設定したが、結果として新たに生み出される地域資源も多かったことより、今後の調査では、新興住宅地が多い地区も対象とする必要があるといえる。

参考文献

- 1) 石崎奈美・福井亘・斉藤庸平（2006）：阪神淡路大震災を契機とした公園緑地における野外彫刻の変容に関する研究：日本造園学会誌ランドスケープ研究 Vol69.No5, 383-388
- 2) 竹田直樹（2001）：日本における1950年代の彫刻設置事業：日本造園学会誌ランドスケープ研究 Vol64.No5, 461-464
- 3) 竹田直樹・八木健太郎（2003）：彫刻設置事業と彫刻シンポジウムの融合の問題点に関する考察：日本造園学会誌ランドスケープ研究 Vol66.No5, 465-468
- 4) 吉田有里・上甫木昭春・田原直樹・澤木昌典（2002）：大阪市における路傍樹の現状と継承に関する研究：環境情報科学論文集16(2002)：205-210
- 5) 菊田翔一郎・上甫木昭春（2005）：地域資源としての河口部におけるクロマツの景観特性と住民意識に関する研究：環境情報科学論文集19(2005), 171-176
- 6) 田畑貞寿・宮城俊作・内田和伸（1990）：城跡の公園化と歴史的環境の整備：造園雑誌 Vol53.No5, 169-174
- 7) 井原緑（2004）：玉藻公園にみる文化遺産の公園化とその変容に関する史的考察：日本造園学会誌ランドスケープ研究 Vol67.No5, 387-392
- 8) 井原緑（2005）：栗林公園にみる文化遺産の公園化とその変容に関する史的考察：日本造園学会誌ランドスケープ研究 Vol68.No5, 389-394
- 9) 岩村高治・横張真（2001）：神戸市における地域住民による公園管理の実態とその展望：日本造園学会誌ランドスケープ研究 Vol64.No5, 671-674
- 10) 概説新しい都市緑地法・都市公園法（2005）：ぎょうせい
- 11) 神戸市都市公園台帳
- 12) 芦屋市都市公園台帳